



×



③

The Fourth Year

これまでの連載活動について紹介したり、ウガンダ、ロサンゼルス、大阪とオンラインで中継を結んで各地で活動している方からお話を聞いたりしました。活動紹介では特に昨年8月に取材した吉田

みなさん、こんにちは。今月は、アースデイ東京2024出展についてレポートします。この連載チームでアースデイ東京に出展するのは2回目で、昨年はおーガニックコットンを使用したオリジナルTシャツを作り、アフリカを支援する布ナプキンプロジェクトを紹介しました。今回は、

私は今回のアースデイを通して、「ワークシヨップと身近さ」について考えました。チロル堂体験では多様な年代の方々に体験していただくことができましたが、これは、多くの人に興味を持ってもらいやすい内容だったからだと思います。今までの私は、自分目線で企画してしまうことが多かったため、対象の年齢層などが少し狭ま



○ののは
・高校1年生

タカシさん（「てらスクール」2023年10、11月号掲載）に特別に許可をもらい「まほうの다가しチロル堂」を体験してもらおう駄菓子屋さんを行いました。



ってしまっていたと思います。けれど、今回の「駄菓子」というテーマは、小さい子からお年寄りまで多くの人に馴染みがあり、身近に感じてもらえたようでした。結果、チロル堂への寄付も多く集ま



りました。これらは、後日、チロル堂に関するイベントに参加し、イベント会場で直接手渡しすることができました。お渡しすると、とても喜んでくださり、なんだから恩返しができたような温かい気持ちになりました。



○るーな
・高校2年生

私は今回チロル堂体験で、来場者とのコミュニケーションの難しさを経験しました。それぞれのお客さんの様子から話す調子や勧め方を変えてみるなど、様々な工夫をしながらコミュニケーションを取るようにしました。また海外の方のお話を聞くプログラムの予告



も、気軽な雰囲気が変わるような言い方を意識しました。最終的には二日目のイベントの席は満席になり、またチロル堂さんにも寄付金をお渡しできてとても良かったです。



○Kako
・高校3年生

私は「知ることの大切さ」を強く感じました。

今回行った駄菓子屋さんには、ただお金を払ってもらうのではなくチロル堂や我々の活動を説明し賛同していただいた方に体験してもらいました。説明をしているときには「知らなかった!」「チロル堂に行ってみたい!」という言葉がたくさん聞くことができ、今までの冊子を何冊も持って帰ってくださる方もいました。

知ると知らないでは大きな差があると思います。知ること新たな知見を得たり世界が広がると思



います。知ることに抵抗せず知り、それを他者に伝えていくことが大切だと感じました。

寄付金を渡した時の様子

吉田さんが、「ここまで本気でこの金額を寄付してくれるなんて思っただけだったので感動してます」とおっしゃってください、取材の時のご縁を大切にしてくださいと感じました。

また、吉田さんやその他の創設メンバーの方もとても喜んでくださり、今回のチロル堂の駄菓子屋を再現できて良かったと思います。

アースデイを経験してみえたことは、チロって（寄付して）もらう大変さです。チロル堂では子どもも百円が、百円から三百円と、百円以上の価値があるものになるように大人にチロってもらおう仕組みになっています。今回のアースデイでも、似たような形で賛同していただいた方にチロってもらおうようにしましたが、実際には大人より子どもの方が来ることが多く、大人が少ない結果となりました。体験してみても、お店をまわすためにはもっと違う形でチロってもらおうこの大切さを実感しました。



○ふりん
高校3年生



協力：一般社団法人シंक・ジ・アース/
新渡戸文化高等学校教諭 山藤旅蘭

